

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 102 号	2010年1月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	---	--

1. 活動報告（事務局 記）

ー1月16日（土）平成22年初集会の報告です。

- ① ビオトープ借用地の対応について、1月15日厚東川水系・・・協議会からのメールの報告
宇部市へ申し込済、市は検討中。NPO法人の傘下にて活動が継続可能になる。
今年度決定しない場合は、1年間借用延長を協議会にて行うとの事。

- ② 会報100回記念冊子作成状況は既に連絡済

イ) 作成は2月第一日曜日に配布可能

ロ) 会員注文数31名32冊

ハ) 寄贈用冊子の選択

うべ環境コミュニティ、山大工学部、宇部環境福祉センター、宇部日報、二俣瀬公民館、二俣瀬小学校、厚東中学校、市図書館、中電宇部電力所、ヒュッテ桂谷、県環境生活部水環境班、宇部市地球温暖化対策ネット、フロンテア大学、きらめき財団、14団体 残り4冊

- ③ 平成22年度の行事総合計画

イ) 本来の維持管理活動を主体とした活動を行うことになった。

したがって、稲作は一年間中止とし、水を張ったまま植生を調査する。もちろん自作米での餅つきはありません。

ロ) 「学童主体の里山自然観察隊」は一年間中止。代わって会員の自然観察会を行う

淡水魚類、野鳥、昆虫、野草、樹木の実きのこの5項目

項目別に講師を2～3名のグループ会員にて決めて、計画、実行を行う事で立案する。

ハ) 夏時期の維持管理は草刈りとエコアップが主体となる活動

冬時期の維持管理は修復活動が主体となる計画を立てる。

- ④ うべ環境コミュニティの傘下に入れた場合は、再度参集し相手先の規約もあり色々の変更もあると思われる。

その他 休日にタテバチドメグサの間引を前田歳朗エコアップリーダーが活動されています。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者

予定はありません

- ◎ 行事

ー2月7日（日）維持活動（特に修復工事とエコアップ）

ー2月20日（土）維持活動（特に修復工事とエコアップ）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

今月は書き込みがありませんでした。

4. 会員の声

今月はありません。

5. ビオトープ関連（ビオトープのトンボたち）（ 管 哲郎 記）

（20）アジアイトトンボ（イトトンボ科・アオモンイトトンボ属）

Ichnura asiatica Brauer

県内に多く見られるアオモンイトトンボよりもひとまわり小さくきゃしゃなイトトンボです。アオモンイトトンボによく似ているので見逃すことが多く、小さいと思ったらよく観察してみてください。一見して“細くてチッチャイ！イトトンボ”と感じます。

植生豊かな池沼、湿地、水田、溝川に生息し、本州では最も普通に見られるイトトンボのようです。国内全域に生息し、繁殖力も強く絶滅の心配は全くないトンボのようですが、なぜか山口県内にはあまり見かけられなくなっています。あちこちで見かけるのですが数が少ないのです。北海道でも産地が局地的であり、東北地方北部や南西諸島では数が少なく、沖縄県では1970年代にはいつから生息記録が相当減少したとのこと。

成虫の期間は長く4月頃から10月過ぎまで見られますが、春から初夏に羽化した個体は大きく秋口に現われる個体はかなり小さくなります。その為かある地方ではトウシントンボ（灯心蜻蛉）と呼んだりオヒメトンボと呼ぶところもあるようです。



スズメノヒエの穂先に止まる
アジアイトトンボの♂（10月）



アキノウナギツカミの茎に止まる
アジアイトトンボの♂（10月）



ため池そばの水稻の葉に止まる
アジアイトトンボの♂（10月）



ため池そばの水稻の葉に止まる
アジアイトトンボの♀（10月）

6. 会よりの連絡事項 （ 事務局より ）

お知らせ

今までにも、今後も活動に参加できない方は、遠慮なく退会を申し出ください。

（活動内容変更で個人的に考え方等そぐわないと思われる方）

18年度の総会で会費未納の方で1年間まったく活動に参加されない方は自動的に退会とみなすとなっておりますが、NPO法人化のグループの傘下に入った場合は変更され、総会で規約改定となります。

7. 編集後記

10年間活動してきたつくる会の活動が大きく変わろうとしています。

1月16日の会合で、今年は子ども主役の観察隊を中止して、会員の自然観察を行おうという意見が出されました。大賛成です。月に2回のつくる会の活動は、私にとっては自然の中で過ごせる貴重な時間です。私は、自然が好きといっても恥ずかしながら知識がありません。植物図鑑で草花などを覚えようとしたのですが、良く似た草花が多く、わずかな葉の形の違いなどで違いを見分けられる会員の方々は、本当にすごいと思います。私もこの機会に少しでも知識を身に付けられたら、もっと自然のなかで過ごす時間が充実できるのではと期待しています。何気なく見過ごしてきたものに気づけるようになれば…新しい世界が広がるような気がしてワクワクします。

（ 中本 亜矢子 記 ）

編集委員は2年前には12名（西原・原田・前田・松本・藤井・益田・若林・大野・小田・美濃和・吉崎・松原 各会員）であったが、100号の時には3名（美濃和・吉崎・松原 各会員）が減って9名となった。そこで、新たに今年から2名（中本・松村 各会員）の方に参加してもらった。会報の編集に携わってもらって、順番に編集後記を書いてもらおうと思っています。一方、会員の声はなかなか投稿が少なく、事務局長が声を掛けても連載できないというのが現状です。自由に思ったことを、普通の言葉で表現してもらったら良いので、どしどし投稿して下さい。

（ 西原 一誠 記 ）